

# 調査レポート

Report

## 改善傾向から悪化へ転じる ～仕入価格改善も、売上伸びず～

【業界の景況】  
業界全体の現在DI値は▲36・3を示し、前回調査（H27・12期）から13・4ポイント下回り、2期連続の改善から一転悪化となった。3ヵ月後の動向を表す先行DI値は▲40・9で、現状より更なる悪化を見込んでいる。  
(グラフ①)

【自社の景況】  
自社の景況は、現在DI値▲22・1となった。前回調査より4・3ポイント下落した。先行DI値は▲32・2で、現在より10・1ポイントの悪化を見込んでいる。  
(グラフ②)

【売上高】  
売上状況を表す現在DI値は▲15・4、前回調査から5・4ポイントの下落となった。3ヵ月後の先行DI値は、▲31・8と現在より16・4ポイントの大きな落ち込みを予測している。  
(グラフ③)

【仕入価格】  
仕入価格の現在DI値は▲13・9で、前回調査から9・2ポイント増となり、3期連続の改善という結果となった。3ヵ月後を表す先行DI値は▲22・5と、現在と比べ8・6ポイント減を予測している。  
(グラフ④)

【販売価格】  
販売価格（受注単価）の現在DI値は▲2・2という結果となり、前回調査から小幅な下落であった。3ヵ月後の先行DI値は▲4・5で現在と比べ2・3ポイント減。  
(グラフ⑤)

【採算（収支）】  
採算状況を表す現在DI値は▲27・6と、前回調査から10・2ポイント減、改善傾向から悪化に転じた。3ヵ月後の先行DI値は▲38・9で、現在と比べ11・3ポイントの大きな悪化を見込んでいる。  
(グラフ⑥)

業種	前回調査との比較					
	業界の景況	自社の景況	売上高 (受注高)	仕入価格 (商品、資材、 原材料等)	販売価格 (受注単価)	採算(収支)
全業種	-13.4	-4.3	-5.4	9.2	-0.7	-10.2
製造業	-8.4	-8.2	5.6	1.8	-10.0	-4.4
建設業	-24.0	1.8	-13.3	8.1	8.7	-23.5
卸・小売業	-8.3	0.1	4.6	8.7	2.0	-8.4
サービス業	-7.6	-6.9	-17.9	21.1	-3.6	-0.6

※青の塗潰しは改善を、赤の塗潰しは悪化を表している。

【調査概要】  
● 調査時期 平成28年3月8日(火)～11日(金)  
● 調査方法 FAXによる送付、回収  
● 調査対象 福井商工会議所会員小規模事業所より 360件を抽出  
● 回答数 183件 (回収率50・8%)

### 気になる統計 ここに注目！

調査レポートの結果から、景況感は改善から一転して悪化しています。特に3ヵ月後の景況の大きな落ち込みを予想されている方が多いですね。景気はどのように変化しているのか、今回は「消費者物価指数」をもとに見てみましょう。

ここ4年消費者物価指数は上昇傾向にあります。お金回りが良くなり、モノを買う人が多くなっているため、物価が上昇しているのではないのでしょうか。また、日銀によるマイナス金利の導入により、銀行でのローンなどの金利が下がり、お金が借りやすい状況となることが予想されます。そのため、お金回りがより良くなり、今後は逆に景況が良くなる可能性もあるのではとの見方もできます。

消費者物価指数 (福井市) (平成22年=100) (福井市)

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
平成25年2月	99.2	101.1	98.0	106.1	90.8	99.0	97.8	101.3	97.2	90.6	105.0
平成26年2月	100.2	102.5	97.2	109.3	94.3	97.6	97.7	104.1	97.5	88.5	107.5
平成27年2月	102.3	106.4	97.7	111.4	95.0	102.8	100.1	103.5	102.7	90.8	110.9
平成28年2月	103.2	111.2	98.2	106.2	94.0	106.5	101.0	100.5	104.4	92.4	110.9

※赤の塗潰しは物価の上昇を、青の塗潰しは物価の下落を表している。

●消費者物価指数とは…  
物価は、国民のお金回りが良くなり、モノを買う人が多くなれば上昇率が高まり、逆にお金回りが悪くなり、モノを買う人が少なくなると、上昇率が下降する傾向にあります。その物価の変動がわかる消費者物価指数は「経済の体温計」とも呼ばれていて、さまざまな国内の経済政策を決める上で、非常に重要な指数として使われています。

